

『栗山ノート』を読みました

年末年始、とあるテレビ番組で栗山英樹監督のトークを聞き、買ってあった『栗山ノート』を読み始めました。栗山氏がいかに沢山の書籍を読んでいるか、書籍から多くの事を学んでいるかをあらためて知りました。

栗山氏は東京学芸大学出身、ドラフト外でヤクルトスワローズに入団しました。ヤクルトではスイッチヒッターの外野手として活躍。守備が上手くて、ゴールデングラブ賞を獲得しましたが、レギュラーと控えをいったり来たりしました。7年間の現役を経て、スポーツキャスター・大学講師。その後日本ファームファイターズの監督を10年、日本代表監督を3年つとめられました。WBCでは優勝監督となり、その言動が注目されることとなりました。

今回のメッセージは『栗山ノート』に収録されている名言です。栗山氏が監督として大切にしていた言葉です。

「人生二度なし」

森信三氏の言葉。たった一度の人生。一瞬一瞬に情熱を燃やせ。一日も無駄にするな。と言った意味でしょうか。

「一燈照隅」(いっとうしょうぐう)

安岡正篤氏の言葉。自分がいるその場所、片隅を明るく照らす人でありたい。空海も同じように「一隅を照らす、此れ国宝なり」と言っています。

「知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず」

論語の言葉。道理に通じた人、知恵のある人は事にあたって、迷いがないという意味。

「すべては反対から始まる」

老子の言葉。弓を射るためには、反対方向に弦を弾く。反対方向に進むことは、発想を豊かにする、発想の転換が必要となる、という意味。

「時宜に叶はざる事は拘泥すべからず」

幕末の思想家、岩村出身の佐藤一斎の言葉。問題解決の案を立てる時は、まず自分の頭で考え、その後先例を参考とすべきである。先例から入るとその考えに固執してしまう。

「霜を踏みて堅氷至る」

「易経」の言葉。霜が降りているところは、もう明日になれば固い氷がはっている。今日のうちの準備を大切にしよう、といった意味。

「成功は常に苦心の日に在り、敗時は多く得意の時に因ることを覚る」

安岡正篤氏の言葉。成功は苦しみの中から生まれ、失敗は慢心の心、油断から生まれる。

令和7年2月3日

津島市教育委員会
教育長 浅井厚視